

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 11月 30日

公表: 令和 6年 2月 15日

事業所名 チャイルドハート筑前

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	5	0	日によって、少人数で支援を行っている。利用者の体調に合わせて部屋を分けて支援している。	全体を見渡せるスペースとなっていて、部屋数や訓練スペースなども確保されている。
	2	5	0	利用者に応じて個別対応も出来るように配置している。	配置基準より常に多くの職員を配置している。
	3	3	2	児童にとっては分かりやすい構造になっている。	小さい子にとっては玄関やトイレ、洗面台が高いと思われるので、安定した踏み台などを取り付けている。また、バリアフリー化が整っていない場所があるため、整えていく必要がある。
	4	5	0	集団での活動と個別での活動との対応ができる造りになっている。	その都度できる限りの配慮は行っているが、利用者の組み合わせによっては不十分な日がある。グルーピングや静養室等を利用して環境整備を図る必要がある。
業務改善	5	5	0	職員会議や職員研修の場を設定している。	祝日なども開所している関係で、非常勤職員も含めて職員全員での会議やミーティングが極めて難しい状況である。今後は会議などを行い文章化していきたい。
	6	5	0	送迎等も含め、日頃から保護者との信頼関係の構築に努めている。	率直な意見を頂き、迅速な対応をしていきたい。
	7	5	0	ホームページ等を利用し、公開している。	常日頃より、保護者との情報交換の中で、真摯に耳を傾け、業務改善に繋げている。
	8	5	0	本部や法人より指摘を受けたことは、職員に伝達し改善に努めている。	第三者による外部評価については今後検討していく。
	9	5	0	研修を受けた職員から伝達講習を行い、業務に生かしている。	県や市からご案内頂いた研修には1名は参加するようにしている。
適切な支援の提供	10	5	0	利用開始時には必ずアセスメントを行っている。	今後勉強会を重ね、職員の統一事項として、個別支援計画書に反映させていく。
	11	5	0	統一したアセスメント評価表を使用している。	アセスメントの頻度を上げ、進捗把握という視点を持って使用していく。
	12	5	0	全職員で、個々の特性を把握し、検討や意見を出し合い、計画書を作成している。	厚労省のガイドラインに示されている基本活動を指針として、活動プログラムを作成している。
	13	5	0	その都度、個に応じた計画を修正し、支援にあたっている。	個々の状態に応じて支援しているため、その計画に沿っていないこともあるが、その都度計画を修正し、支援にあたっていく。
	14	5	0	日々、活動内容を検討している。	複数名の職員が関わりながら活動プログラムの立案と実施にあたっての準備をしている。
	15	5	0	活動内容を全職員で検討し、個々の状態に応じて対応している。	毎月工夫したプログラムを作成し、全職員で共有している。
	16	5	0	個別活動・集団活動により、個々に合った活動を提供している。	個別活動と集団活動を時間配分をし、日々組み合わせている。個別活動への職員の関わり方は組織的かつ計画的に全職員で共有する必要がある。

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	ミーティングに参加できなかった職員には議事録で確認して、その日の現場状況に合わせて役割分担を行っている。	朝礼にてその日の利用者や天候等で活動内容を打ち合わせながら支援にあっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	日々の支援記録表を利用して支援の振り返り、気づいた点を全職員で共有している。	支援終了後の職員間での打ち合わせは完全には難しく、チャットやlineを使って情報共有を行っている。重要事項に関しては、その日のうちに職員間で共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	日々、支援記録は残し、支援内容の検討・改善を行っている。	非常勤職員の情報共有を徹底していきたい。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	全職員で意見を出し合い、計画の継続や見直しなどの検討を行っている。	最低6カ月に1回は、モニタリングを行い、計画の継続や見直しなどの検討を行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	日程を調整しながら、最も相応しい者が参画している。	以前はコロナ禍で、WEBや書面などで確認を行っていたが、現在は参画できている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	利用者によっては必要な助言を受けている。	WEB研修などで情報交換はしているが、より密に連携を行うためには、今後の課題である。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2	今のところ、医療的ケアが必要な児童はいない。	現在、医療的ケアが必要な児童はいないが、積極的に研修等にも参加して準備していきたい。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	今のところ、医療的ケアが必要な児童はいない。	現在、医療的ケアが必要な児童はいないが、積極的に研修等にも参加して準備していきたい。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	日程を調整しながら、情報共有に努めている。	以前はコロナ禍で出来ていなかったが、今後さらに情報共有を図り、深めていきたい。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	日程を調整しながら、情報共有に努めている。	移行支援としての情報共有をより密な連携を取るためには課題である。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	利用者によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。	今後、研修あれば積極的に参加していきたい。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	お買い物体験やお出かけ体験等の活動を通して、間接的に障害のない子どもと触れ合う機会を設けている。	これから機会を増やしていきたい。今後さらに活動していけるように計画的に取り組みたい。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2	日程を調整しながら、積極的に参加している。	業務に支障のない限り参加している。また他事業所との情報交換や交流に努めていきたい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	ご利用時の連絡帳や送迎を通してきめ細やかな情報交換を行っている。	保護者のニーズと事業所の課題に対し、ズレている部分があるように思える。(預かりのみで考えている方もいる。)	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1	相談があった時に、個別に対応している。	案内等は行っているが、今後は積極的に保護者会や茶話会でも行っていきたい。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	見学や体験時に重要事項説明、利用のしおりを用いた具体的な利用方法まで丁寧に説明を行っている。	利用契約時に重要事項説明・利用規約・運営規定・支援方法と具体的な内容や利用者負担額・上限管理の仕組みと利用方法の説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	利用日前までに個別支援計画書を作成し、保護者へ説明し同意を得ている。	個別支援計画書を作成し、保護者へ説明し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	モニタリングの時期に合わせて、電話連絡や送迎時に状態変化や要望をお聞きして、連絡を取っている。	ご相談いただければ全て真摯に対応し、事業所として適切な回答を模索して上で、アドバイスをお返している。	
	保						

護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	定期的に茶話会等を開催して、保護者同士の情報交換や交流に努めている。	ご家族同士での情報共有や交流、日頃の生活での悩みやストレスなど、気軽に相談できる場として定期的に茶話会を実施している。また、相談があった時には個別に対応している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	迅速かつ適切を旨に意識している。	連絡帳や送迎時に連絡があった際には、共通理解として対応したり、対応策なども報告をしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	各利用保護者へlineでの写メを週1程度で送付している。また定期的にブログやインスタグラムも配信している。	ブログやインスタグラムも配信の更新の頻度を上げていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	鍵付きの書庫に保管している。	個人情報が記載されている文書は鍵付きの書庫に保管し、文書の廃棄にはシュレッターを使うなど、個人情報の取扱いには細心の注意を払っている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	子どもや保護者へ支援や情報伝達を行っている。	事業所として積極的に相互コミュニケーションを取るべく配慮や環境づくりをしていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	野外活動での地域の方々との交流はあるが、招待までには至っていない。	コロナ禍の為、行えてなかった為、今後は避難訓練等も含め、地域と取り組んでいきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	通信やインスタグラムで配信しているが、ご家庭によっては周知が不足している場合がある。	保護者に対しては周知できていない。今後はモニタリングの機会を見つけて説明していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	定期的に子どもたちに危機意識を持たせて訓練を行っている。	常に子どもたちに災害に対する危機意識を持たせて、訓練を行ってきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	利用契約時に服薬がある場合にはその都度、確認と対応方法を聞いている。	常に医師の指示書の提出を求めていないので、保護者からの指示や事業所としての調査に基づいて対応していきたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	利用契約時にアレルギーがある場合にはその都度、確認と対応方法を聞いている。	現在、該当者はいないが、食物アレルギーの子ども利用があれば対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	全職員で共有し、事故防止に努めている。	どのようなケースにあたるのか、その基準が個人の判断に任されているので、基準を明確にする必要がある。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	本部の研修や事業所内で定期的に行っている。	事例集などを情報として、見聞きした時には注意喚起していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	身体拘束が必要性が低い利用者ばかりだが、本部の研修や事業所内で定期的に行い、全職員で周知している。	拘束自体起きた事がない。 身体拘束が必要な利用者はいないが、必要な利用者がいれば、説明し理解を得た後、計画書にも記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 11月 30日

公表: 令和 6年 2月15日

事業所名

チャイルドハート筑前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	利用者の体調に合わせて部屋を分けて支援している。	室内では補えない動作や遊びの中でも順番を守るなどのスキルを野外で自然と身に付けられるように促している。
	2	職員の配置数は適切である	5	0	利用者に応じて個別対応も出来るように配置している。	基準配置は満たしている。利用者の特性に応じて個別対応も出来るように配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	分かりやすい構造になっているが、一部不足している。	バリアフリー化が整っていない場所があるため、整えていく必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	職員会議や職員研修の場を設定している。	口頭でのやり取りとなっているため、今後は会議などを行い文章化していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	送迎等も含め、日頃から保護者との信頼関係の構築に努めている。	率直な意見を頂き、早急に対応していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	ホームページ等を利用し、公開している。	常日頃より、保護者との情報交換の中で、真摯に耳を傾け、業務改善に繋げている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0	本部や法人より指摘受けたことは、職員に伝達し改善に努めている。	第三者による外部評価については今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	参加できていない職員には伝達講習で対応し、資質向上を図っている。	県や市からご案内頂いた研修には1名は参加するようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	利用開始時には必ずアセスメントを行っている。	今後勉強会を重ね、職員の統一事項として、個別支援計画書に反映させていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	統一したアセスメント評価表を使用している。	アセスメントの頻度を上げ、進捗把握という視点を持って使用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	日々、活動内容を検討している。	複数名の職員が関わりながら活動プログラムの立案と実施にあたっての準備をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	活動内容を全職員で検討し、個々の状態に応じて対応している。	毎月工夫したプログラムを作成し、全職員で共有している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	個々の状態に応じて設定して支援している。	長期休暇前には、職員会議にて個々の課題を決め、支援や活動を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	個別活動・集団活動により、個々に合った活動を提供している。	個別活動と集団活動を時間配分をし、日々組み合わせている。個別活動への職員の関わり方は組織的かつ計画的に全職員で共有する必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	ミーティングに参加できなかった職員には議事録を確認して、その日の現場状況に合わせて役割分担を行っている。	朝礼にてその日の利用者や天候等で活動内容を打ち合わせ支援にあっている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	緊急性を要しない場合は、次の日の朝礼で共有し、それ以外の時も支援員同士で情報交換している。翌日の朝礼で行っている。	緊急性を要しない場合は、次の日の朝礼で共有し、それ以外の時も職員同士で情報交換している。また翌日の朝礼で行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	日々、支援記録は残し、支援内容の検討・改善を行っている。	非常勤職員の情報共有を徹底していきたい。

関係機関 や保護者 との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	全職員で意見を出し合い、計画の継続や見直しなどの検討を行っている。	最低6カ月に1回は、モニタリングを行い、計画の継続や見直しなどの検討を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	0	個々の特性を把握し、支援している。	計画立案時に盛り込んでおり、計画書に沿って支援している。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	日程を調整しながら、最も相応しい者が参画している。	以前はコロナ禍で、WEBや書面などで確認を行っていたが、現在は参画できている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	学校への送迎時なども含め、必要に応じて情報交換している。	学校との情報共有は、送迎時や担当者会などを含め、また保護者の方々を通して行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	1	今のところ、医療的ケアが必要な児童はいない。	現在、医療的ケアが必要な児童はいないが、積極的に研修等にも参加して準備していきたい。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	日程を調整しながら、情報共有に努めている。	各関係機関と連絡を取り、個々の情報の共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	移行する年齢に達した利用者がまだ居ない。	今後、卒業する利用者も出てくるため、情報共有をしていきたい。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	利用者によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。	今後、研修あれば積極的に参加していきたい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	お買い物体験やお出かけ体験等の活動を通して、間接的に障害のない子どもと触れ合う機会を設けている。	これから機会を増やしていきたい。今後さらに活動していけるように計画的に取り組みたい。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	0	日程を調整しながら、積極的に参加している。	業務に支障のない限り参加している。また他事業所との情報交換や交流に努めていきたい。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	ご利用時の連絡帳や送迎を通してきめ細やかな情報交換を行っている。	保護者のニーズと事業所の課題に対し、ズレている部分があるように思える。(預かりのみで考えている方もいる。)	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	相談があった時に、必要と思われる保護者に個別に対応している。	案内等は行っているが、今後は積極的に保護者会や茶話会でも行っていきたい。	
	保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	見学や体験時に重要事項説明、利用のしおりを用いた具体的な利用方法まで丁寧に説明を行っている。	利用契約時に重要事項説明・利用規約・運営規定・支援方法と具体的な内容や利用者負担額・上限管理の仕組みと利用方法の説明を行っている。
		31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	ご相談は全て真摯に対応し、事業所として適切な回答を模索して上で、アドバイスをお返している。	モニタリングの時期に合わせて、電話連絡や送迎時に状態変化や要望をお聞きして、連絡を取っている。
		32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	定期的に茶話会等を開催して、保護者同士の情報交換や交流に努めている。	ご家族同士での情報共有や交流、日頃の生活での悩みやストレスなど、気軽に相談できる場として定期的に茶話会を実施している。また、相談があった時には個別に対応している。
		33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	迅速かつ適切を旨に意識している。	連絡帳や送迎時に連絡があった際には、共通理解として対応したり、対応策なども報告をしている。
		34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	月ごとに筑前通信を発行し、また定期的にブログやインスタグラムも配信している。	月ごとに筑前通信を発行し、また定期的にブログやインスタグラムも配信している。

	35	個人情報に十分注意している	5	0	鍵付きの書庫に保管している。	個人情報が記載されている文書は鍵付きの書庫に保管し、文書の廃棄にはシュレッターを使うなど、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	子どもや保護者へ支援や情報伝達を行っている。	事業所として積極的に相互コミュニケーションを取るべく配慮や環境づくりをしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	野外活動での地域の方々との交流はあるが、招待までには至っていない。	コロナ禍の為、行えてなかった為、今後は避難訓練等も含め、地域と取り組んでいきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	通信やインスタグラムで配信をしているが、ご家庭によっては周知が不足している場合がある。	保護者に対しては周知できていない。今後はモニタリングの機会を見つけて説明していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	定期的に子どもたちに危機意識を持たせて訓練を行っている。	常に子どもたちに災害に対する危機意識を持たせて、訓練を行っていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	本部の研修や事業所内で定期的に行っている。	事例集などを情報として、見聞きした時には注意喚起していきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	身体拘束が必要性が低い利用者ばかりだが、本部の研修や事業所内で定期的に行い、全職員で周知している。	拘束自体起きた事がない。 身体拘束が必要な利用者はいないが、必要な利用者がいれば、説明し理解を得た後、計画書にも記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	利用契約時にアレルギーがある場合にはその都度、確認と対応方法を聞いている。	現在、該当者はいないが、食物アレルギーの子どもの利用があれば対応していく。必要な場合はDr.の指示書に則り対応していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	全職員で共有し、事故防止に努めている。	どのようなケースにあたるのか、その基準が個人の判断に任されているので、基準を明確にする必要がある。